特別支援教育とユニバーサルデザインに関する意識調査

要支援の子どもが参加する機会の多い音楽科授業担当教員へ向けた問題提起

初等教育教員養成課程 音楽選修 奥田 楓花

文部科学省の調査により、担任として持った通常クラスの中に発達障害の子どもが在籍している可能性が極めて高いことが分かっている。そして、教員養成大学ではその事実を学生に伝えながらも、特別支援教育に関して詳細に学ぶ機会は多く用意されていない。さらに音楽科の授業では、特別支援要支援クラスから要支援の児童を受け入れることが多い。教員になることを目前とした音楽科の学生たちは、それに対応できるだけの特別支援教育に関する知識や能力を身につけているとは言えず、強い不安を感じている。

第一章では、教育職員免許法によって定められている特別支援学校教員免許の保有の実態を概観した後に、文部科学省による通知の中で教員に求められている素質について整理した。続く第二章では、教育の中にユニバーサルデザインを取り入れるための手法として、学習のユニバーサルデザインや授業のユニバーサルデザインについてまとめた。そして第三章では、教員を目指す学生を対象に特別支援教育やユニバーサルデザインに対する意識調査を行い、その結果を分析している。彼らは特別支援教育の関心は高くそれについて学びたいという気持ちをもっている反面、必要な知識や学ぶ術を確立していないことに強い不安を感じていた。また、彼らの関心は突発的な行動を起こしやすい ADHD の症状に集中しており、子どもが一人で抱え込みやすい自閉症スペクトラムやアスペルガー症候群、LD には関心が低いことも分かった。さらに、発達障害以外の障害のある子どもに触れる回答はほとんどなかった。この結果を受けて、発達支援に関する根本的な疑問を含め、学校教員になる前に教員として知っておきたい事項や参考になり得る情報を整理し、合わせて授業のユニバーサルデザインを取り入れるためのチェックリストもまとめた。

本研究を通して、特別支援教育への関心の低さだけでなくその必要性を再認識した。要支援の児童をクラスに参加させる方法である「授業のユニバーサルデザイン」の概念は、クラス運営に十分効果的であると考えられる。そして何より、学校教員が担任をもつとき抱える不安を、分かりやすく解消していく手段になり得ると考える。冒頭述べたとおり、音楽科の授業であっても要支援の児童と日常的に触れると言っても過言ではない。その際、ここでまとめた情報が少しでも役に立つことを期待している。